

倫理委員会議事録

開催日時 平成29年6月26日(月) 16:00~17:15

場 所 第1会議室

出席者 大山診療部長(委員長)、水城呼吸器科専任部長、菅野内科医長
佐々木看護部長、豊田管理課長
遠藤外部委員、鈴木外部委員
欠席：曾我事務部長(副委員長)、小原神経内科医長

記録：豊田管理課長

進 行 申請者による倫理審査申請の説明、質疑応答
(溝江教育担当看護師長 立会)

1. <申請者による説明後質疑応答>

- 1) デスカンファレンスを経験した看護師の心理的变化 ～ターミナル態度尺度の評価から～
 - ・分析はT検定ではないので、もう一度調べること。
 - ・振り返りシートはいつ記入するか。
→デスカンファレンスの前に記入してもらい、カンファレンスの内容に生かすようにします。
 - ・AチームとBチームの違いは。
→病棟入院患者を半分に分け2チーム(AとB)で担当しています。
- 2) 結核病棟に入院されている患者家族に対する意識調査 ～患者家族の結核に対する知識を深めるための指導を通して～
 - ・現在使用しているパンフレットを改善するイメージでよいか。
→はい。
 - ・アンケート対象は患者か家族か、または患者と家族の両方か。アンケートや説明資料が不明確な点があり修正が必要でないか。
→家族です。修正します。
 - ・家族が対象であり、質問の内容が難しくないか。
→分からない場合は、寄り添って丁寧に説明を行います。
 - ・職業を尋ねることはアンケート対象者の特定につながるおそれがあるので、設問から外すこと。また、アンケート欄の文字が小さいため、回答しやすいようページを変える等工夫したほうがよい。
→職業欄は削除します。また、アンケート全体の構成を見直しします。
- 3) 頸椎・腰椎手術患者における術後せん妄予防に対するパンフレット使用後の効果
 - ・パンフレットはないのか。

- これからの作成となります。
- ・アンケートをとってからパンフレットを作るのか。
 - パンフレットを先に作ります。
- ・アンケートは患者にするのか。
 - はい。
- ・パンフレットの参考資料はあるか。
 - イメージはついています。イメージしやすい図・写真で知識を与えて、せん妄を減少させます。
- ・調査期間の4月～6月は何をしたのか。
 - 頸椎・腰椎手術患者数を確認しました。この数が20名であり、8月以降パンフレットを用い20名の患者に対し調査を行います。

4) A病棟の自宅退院する患者の在宅訪問における効果の検証

- ・在宅訪問とあるが、看護師単独で行うのか。診療報酬の退院前訪問指導料を想定しているのか。
 - リハビリ(P T、O T)に同行することを想定しています。
- ・リハビリと一緒にということだが、看護師の在宅訪問の目的を明確にする必要がある。
- ・アンケートの中身が薄く、集計して一定の結論を導き出せるか疑問である。
- ・在宅訪問を希望する者だけでは研究成果が導き出せないのではないか。
- ・対象者を自宅退院患者全員にして退院後に自分達の指導がどうだったか振り返る方法もあるのでは。

5) コンピテンシー事例検討がもたらす看護管理成果

- ・結果データの発表場面を教えてください。
 - 北海道東北での研修会等で発表を予定しています。

2. <判定>

1) 承認

2) 条件付承認

アンケート資料の一部修正。

3) 継続審議

パンフレット作成後に再審査。

4) 継続審議

退院者全員にアンケートを行うことを基本に方法の見直しが必要。その後再審査。

5) 承認